

ネット利用の低年齢化対策サブワーキング 2016年度 報告書

2017年3月31日

安心ネットづくり促進協議会
調査企画作業部会
ネット利用の低年齢化対策サブワーキング

内 容

はじめに	- 3 -
1. 活動方針と体制	- 4 -
1-1. ネット利用の低年齢化対策サブワーキング体制	
1-2. 活動概要	
2. 活動詳細	- 5 -
2-1. 2015 年度アンケート調査結果の再検証	
2-2. 啓発資料内容の検討、作成	
2-3. 啓発現場における実践利用と効果検証	
3. 活動総括、今後の活動方針.....	- 17-

はじめに

スマートフォンやタブレット端末等に、幼児や小学校低学年の児童が接する機会が増えており、学習教材として活用されるケースの他、保護者の端末を借りて動画視聴やゲーム等を長時間行う子供もいる。

このような時事課題を受け、安心ネットづくり促進協議会（以下：安心協）では調査企画作業部会内に「ネット利用の低年齢化対策サブワーキング」を設置し、低年齢層の幼児、児童のネット利用実態と保護者の意識調査を実施し、その結果を経て、保護者向けの啓発資料作成、展開を行った。

調査結果と啓発資料は、青少年や保護者のインターネット・リテラシー向上に取り組む当協議会及び会員企業・団体等の各地での普及啓発活動や、安心安全サービスの提供・改善につなげていくことを目指している。

なお、本サブワーキングは2015年度より活動を開始、本年度の活動内容は、2015年度に実施した「低年齢層の子供のネット利用実態と、その保護者の意識実態調査アンケート」の結果を基軸としている。

（昨年度報告書 <http://www.good-net.jp/investigation/working-group/research-study/2016/105-0000.html>）

そのため、「2. 活動詳細」の「2-1. 2015年度アンケート調査結果の再検証」は、上記アンケート結果より本年度の活動に直結する部分を抜粋し、再度検証・整理したものとなっている。

再検証・整理を経て検討・作成した啓発資料（2種：P11～12 参照）は安心協の関与する研修会やイベントで広く配布を行い、保護者アンケート取得が可能なケースでは当該資料の効果測定も一部行った。

参照によって「子供のインターネット利用への不安が軽減されたか」、「フィルタリングや機能制限等の設定に対する”難しい”、”面倒”というイメージは変わったか」、「実際に自分または子供の利用機器に対して対策・設定したいと感じたか」の検証を行い感覚や意識の変化を測った結果、「不安の軽減」「難しいイメージの緩和」「対策・設定意欲」全項目に一定の効果が見られたことから、今回作成した啓発資料の有効性がみとめられた。

1. 本年度の活動方針と体制

本年度は前年に実施した低年齢層の幼児、児童のネット利用実態と、その保護者の意識実態把握のための調査を経て、保護者向けの啓発現場で活用できる資料を作成し、啓発の実践を通じた効果検証を行った。

1-1. ネット利用の低年齢化対策サブワーキング体制

以下の体制でサブワーキングの運営を行った。

リーダー： 尾花 紀子 (ネット教育アナリスト) 安心協 普及啓発広報委員会 副委員長

サブリーダー： 七海 陽 (相模女子大学 子ども教育学科 准教授)

アドバイザー： 坂元 章 (お茶の水女子大学 教授) 安心協 調査企画作業部会 主査

参画メンバー： 安心協:調査研究、普及啓発関係者、関係府省庁 約20名

活動期間 2016年9月～2017年3月(サブワーキング開催4回)

1-2. 活動概要

サブワーキングを通じて以下プロセスで検討・作成作業を行った。

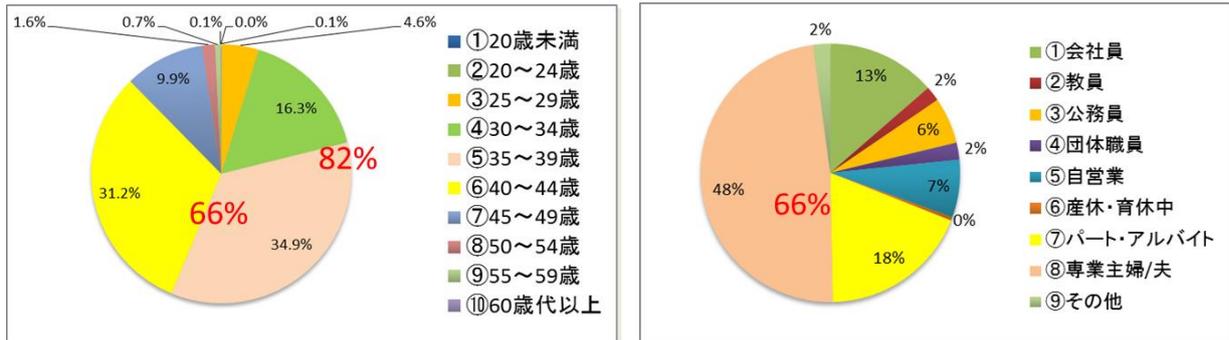
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① 2015年度アンケート調査結果の再検証 | 2016年9月～2016年10月 |
| ② 啓発資料内容の検討、作成 | 2016年11月～2017年2月 |
| ③ 啓発現場における実践利用と効果検証 | 2017年2月～2017年3月(利用継続中) |

2. 活動詳細

2-1. アンケート調査結果の検証

① 2015 年度に実施した調査と結果概要

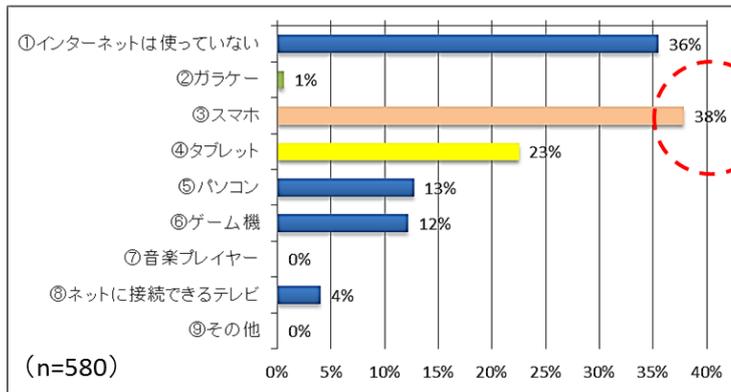
調査対象	未就学児(0歳～6歳)、小学生低学年(1年～3年)およびその保護者
調査方法	保護者アンケート ー 基本選択式とし、選択肢に(その他)があるものについては自由記述 ー アンケート用紙を配布し、記入(無記名)後に郵送、FAX、データで回収
調査時期	2015年12月7日～2016年1月25日
アンケート調査回答者数	1,184名 (属性は下図参照)



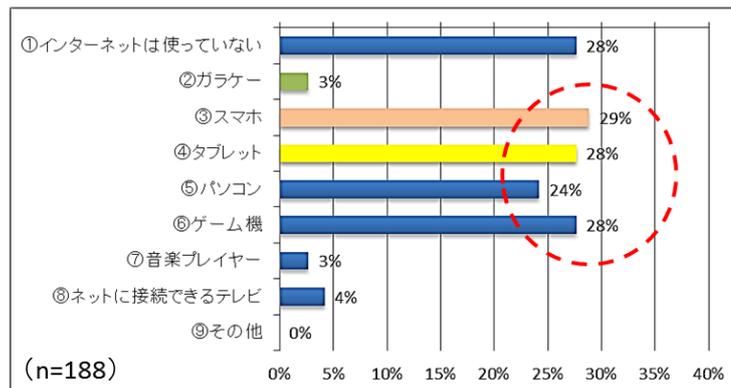
調査結果サマリー ※ネット利用の低年齢化対策サブワーキング 2015 年度 報告書より抜粋

- ・幼児保護者の64%、小学校低学年保護者の72%が、何らかの方法で子供にインターネットを使わせている。
- ・幼児の38%がスマートフォンでインターネットを利用している。
- ・幼児から小学生になるとスマートフォンの利用率が若干下がり、タブレットやパソコン、ゲーム機を使ったインターネット利用が増えており、利用機器の多様化傾向がみられる。

【幼児】

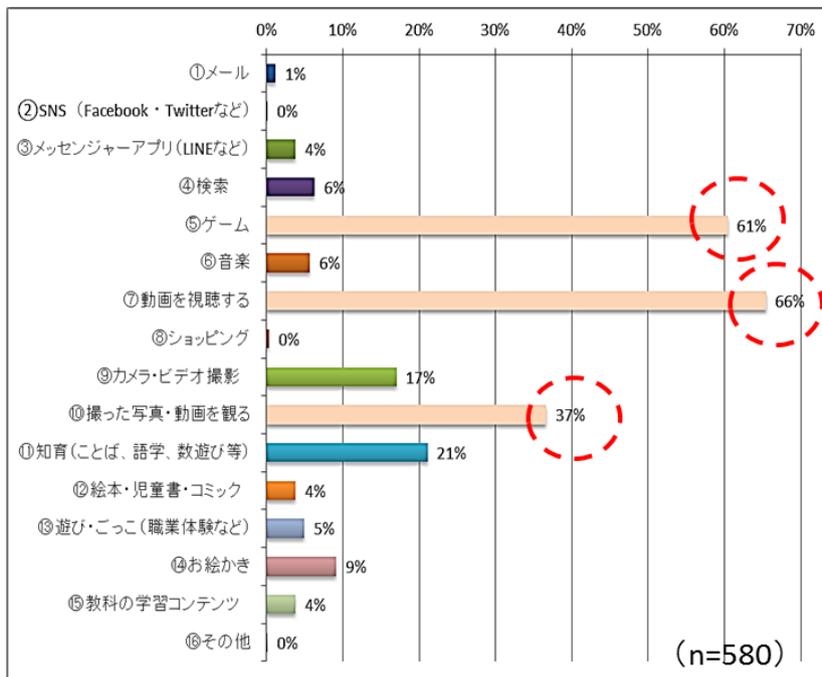


【小学生】



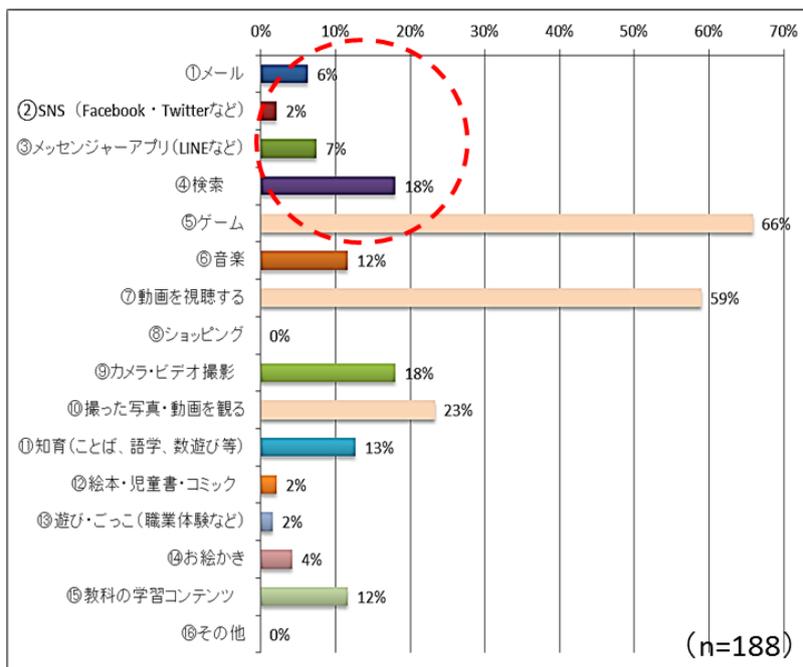
・幼児期はゲーム、動画視聴(YouTube等)や、写真を見る、知育の用途が多い。

【幼児】



・小学生になると ④検索 が増加。また、①メール、③メッセージ等「誰かとコミュニケーションするもの」(相手のあるもの)を使い始めるという傾向が見られる。

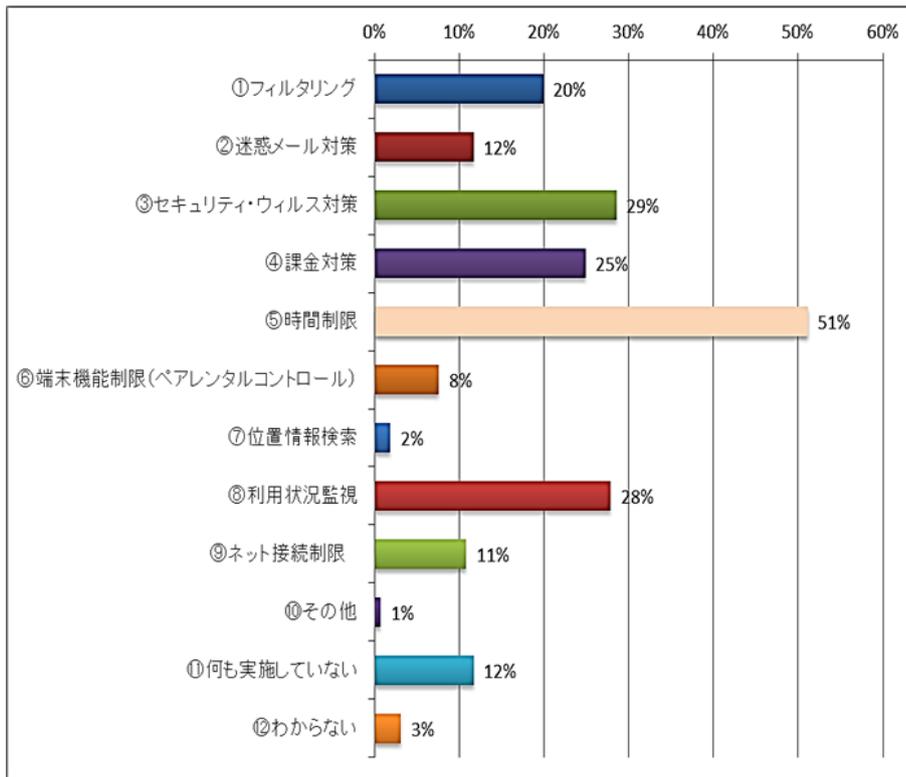
【小学生】



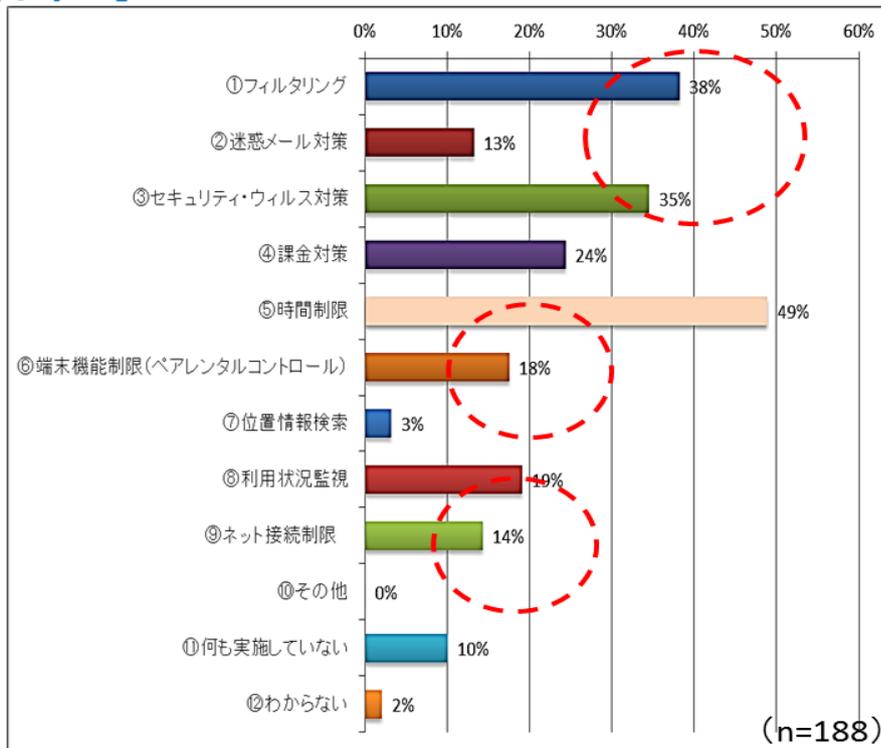
・幼児期においては、家族と一緒にのとき、外出時の待ち時間、保護者が手が離せないときの利用が多いが、小学生になると、一人のとき、友達と一緒にのとき、留守番のときが増加している。

・子供がインターネットを使ううえでの安心・安全対策については、幼児から小学生になり使い方／使わせ方の変化(保護者の機器を目の前で使わせる→自分の機器を保護者の目の届かないところで使う他)に伴い、フィルタリング、セキュリティ対策、ペアレンタルコントロール等への実施状況にも変化がみられる。

【幼児】

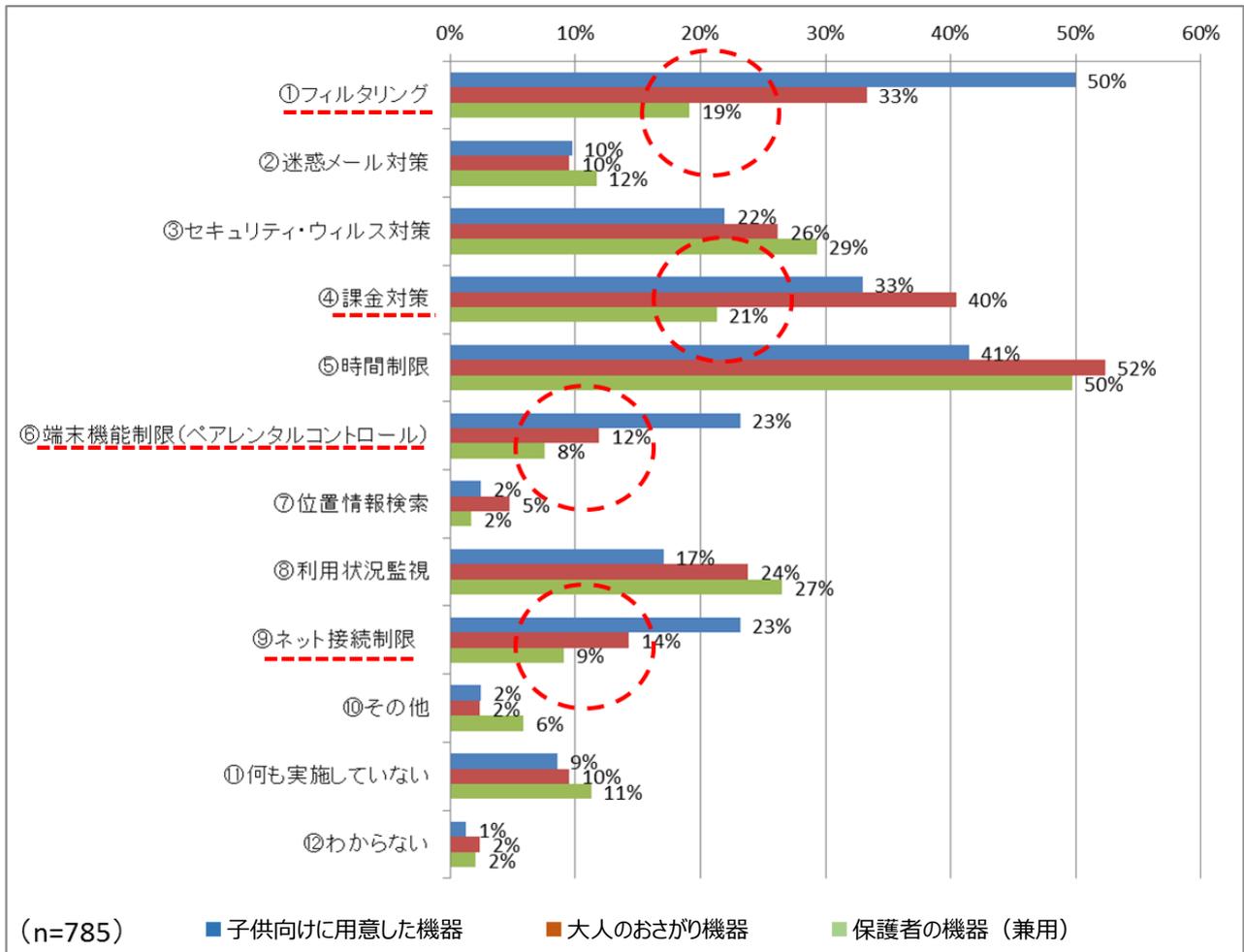


【小学生】

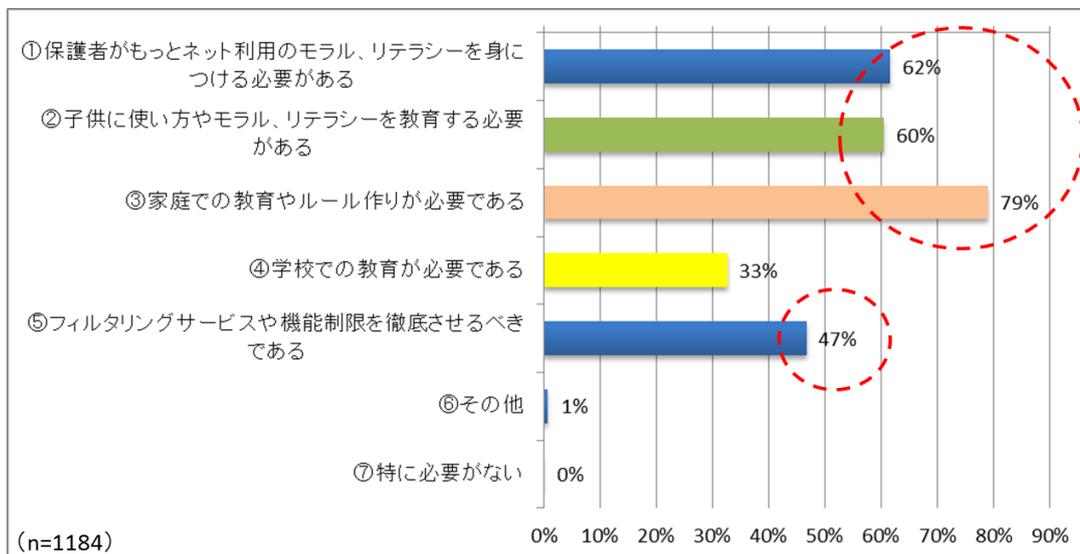


<子供が利用する機器の所有区分と安心安全対策の関係>

- 保護者の機器を兼用している場合、のフィルタリング設定率、端末機能制限、課金対策、接続制限対策は低い傾向にある。

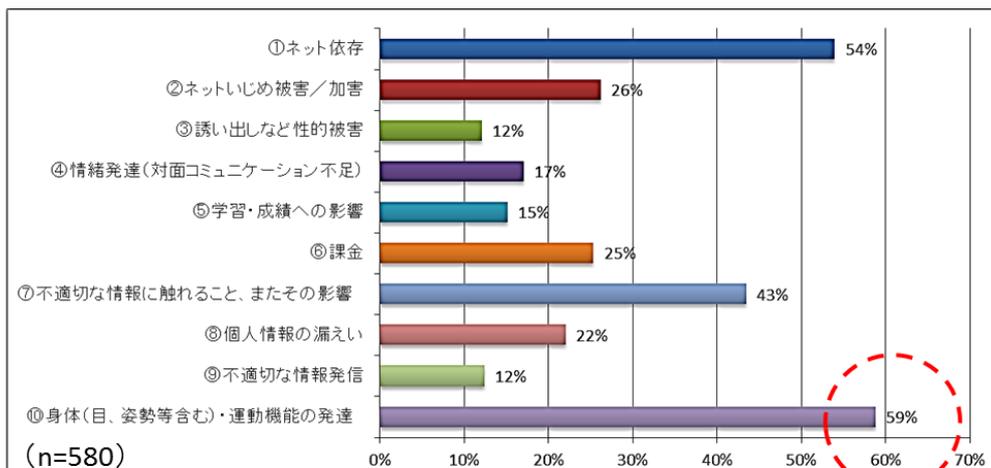


- 保護者が考える『子供がインターネットを安心・安全に利用する上で必要と思われること』として「③家庭での教育やルール作り」が最も多く、そのために必要な「①保護者がネット利用のモラル、リテラシーを身につけ」、それをしっかりと「②子供に教育すること」への回答が多かった。(幼児と小学校保護者に顕著な差はなし)

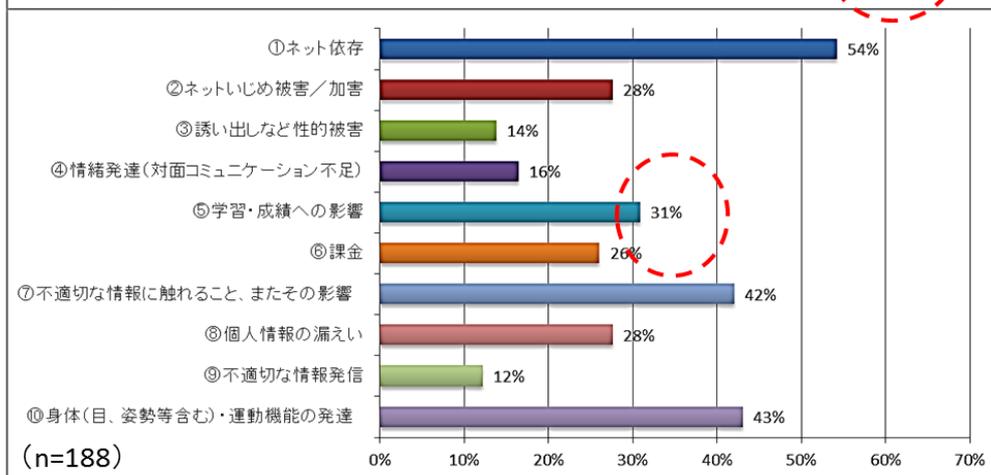


・保護者が子供にインターネットを利用させるうえで不安に思っていることは、幼児は身体・発達への影響が高く、小学生になると学習・成績への影響が増える傾向が見られる。また、年齢に関係なく、ネット依存と不適切な情報に触れることへの不安が高い。

【幼児】

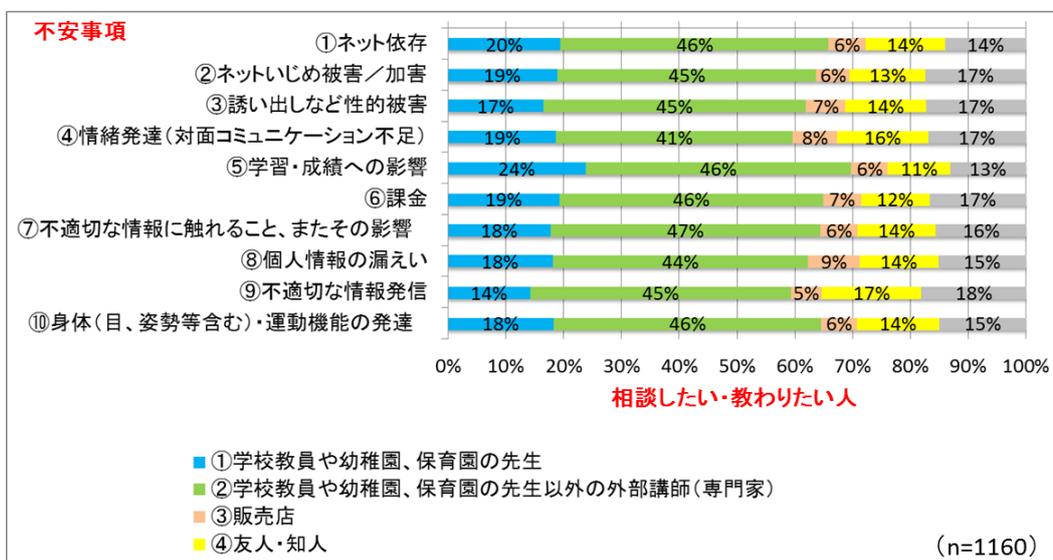


【小学生】



・保護者自身がインターネットの適切利用に自信がない場合、子供へのネット利用の教育もあまりできていないとの回答が多い傾向にある。

・インターネットを安心安全に使うためのモラル・ルール・対策を学んだ機会については、幼児保護者では学外研修で学ぶ機会は少なく、学んだ経験がない保護者も多い傾向にあり、機会があれば相談機関・啓発セミナーを利用したいとの回答が多かった。なかでも外部専門家に相談したい、教わりたいニーズが高い傾向にあった。



② アンケート調査から見えた現状課題と対策

親子兼用端末やおさがり端末を使用させている場合、フィルタリング設定率、および端末機能制限、課金対策、接続制限対策など、安全のための各種設定・手段の利用率は低い傾向にあった。

一方で、幼児の保護者はインターネットを安心安全に使うための対策を学ぶ機会は少なく、相談機関や啓発セミナーを利用したい、専門家に相談したい、教わりたいというニーズが高い傾向にあることが明らかになった。

想定される理由として、年齢的に若い保護者が増え、保護者自身が、フィルタリング等の安心安全機能が充実していないスマホ黎明期に利用を開始していることに加え、必要な情報を得たり教育等を受けたりする機会も少なかった世代であるために、低年齢の子供がインターネットを利用する際のリスク認識が高くない、もしくはリスク対策のためにできることについての知識を有していないことなどが考えられる。

また、自分のスマートフォンを子供に使わせる際、その都度子供向けに設定を切り替えるのはそもそも手間のかかる作業であり、子供の様子や状況によっては容易ではないことが推測できる。

上記課題より、低年齢の子供を育てる保護者の実状や心情を十分に配慮したうえで、危機管理意識を醸成することが急務であると考えられた。

対策としては、保護者向けに低年齢の子供がデジタル機器、ネットを利用するリスクを注意喚起するとともに、利用させる上で保護者が感じている不安を軽減するために役立つ手段として、フィルタリング、ペアレンタルコントロール(保護者による使用制限)、動画サイトの検索制限などの機能と設定方法を紹介する普及啓発ツールを作成し、啓発を実践することが有用であると考えられた。

なお、普及啓発ツールについては、想定されるリスクケース毎に具体的な解決方法を示し、保護者が自身のスマホにあてはめて簡単に設定・対応できるものでなくてはならない。

2-2. 啓発資料内容の検討、作成

低年齢子供の保護者向けの啓発資料としてターゲットや場面に応じた展開ができるよう以下2種を作成することとした。

資料内容の検討、レビューには安心協の普及啓発関係者、関係有識者、府省庁もメンバーに加わっていただくことで啓発の実践現場の声や最新技術情報の反映につとめた。

	資料名	主なターゲット	仕様
1	「インターネットを安全に利用するために ～サービスや設定を知りたいみなさまへ～」	小学校低学年の保護者 (10歳未満の小学生)	4ページ A4 カラー、2アップ両面
2	「考えよう！ 子育てと子供の成長とデジタル機器」	乳幼児の保護者 (未就学児全般)	8ページ B5 カラー、観音開き

【資料1】「インターネットを安全に利用するために ～サービスや設定を知りたいみなさまへ～」

- 主に小学校低学年の保護者向けの啓発資料
- 低年齢の子供がネット機器を利用する際のリスク喚起と、保護者が感じている不安を軽減するために役立つ手段として、フィルタリング、ペアレンタルコントロール、動画サイトの検索制限などの機能を紹介



<P1>

<P2>

ページ 1: リスク喚起と対策概要

ページ 2: フィルタリングサービスの紹介、
使い過ぎや依存への配慮



<P3>

<P4>

ページ 3: iOS 機能制限および

Google 保護者による使用制限の紹介

ページ 4: YouTube 制限付きモード設定方法の
紹介

【資料2】「考えよう！子育てと子供の成長とデジタル機器」

- 主に乳幼児の保護者向けの啓発資料
- 低年齢の子供にスマホやタブレット等のデジタル機器を使わせる際に知っておきたいこと、心がけたいこと、してあげたいこと
- 保護者が感じている不安を軽減するのに役立つ手段として、フィルタリング、ペアレンタルコントロール、動画サイトの検索制限などの機能を紹介

ページ1(表表紙)～ページ3:リスク喚起と対策概要 ページ4:フィルタリングサービスの紹介、安全への配慮
 ページ5～7:iOS 機能制限、Google 保護者による使用制限、YouTube 制限付きモード設定方法、他の紹介
 ページ8(裏表紙):大人のための「情報モラル&マナー」チェックシート、お役立ち相談窓口一覧



<P8>

<P1>

<P2>

<P3>



<P4>

<P5>

<P6>

<P7>

資料は研修会や該当イベントなどで配布するための印刷物に加え、安心協のWebページに PDF ファイルを掲載し、ダウンロード利用を可能とした。(http://sp.good-net.jp/filtering/)

また【資料1】「インターネットを安全に利用するために ～サービスや設定を知りたいみなさまへ～」については研修やイベントの主管を配布元として記載できるスペースを設けた版も用意し、幅広くご利用いただけるようにしている。(PDF の当該スペースにテキストを追加して印刷)

2-3. 啓発現場における実践利用と効果検証

今回作成した啓発資料は安心協の関与する研修会やイベントで広く配布を行い、保護者アンケート取得が可能なケースでは当該資料の効果測定も一部行った。

(下表のイベント1と2の2回は、完成を待たず【資料1: α版・β版】を使い配布・効果検証)

啓発資料の配布や研修・イベントに参加後に実際に安心安全対策・設定を行ったかをトレースするのは困難なため、当該資料の参照により「子供のインターネット利用への不安が軽減されたか」、「フィルタリングや機能制限等の設定に対する”難しい”、”面倒”というイメージは変わったか」、「実際に自分または子供の利用機器に対して対策・設定したいと感じたか」という意識の変化有無について検証を行った。

	イベント、研修名	日時	資料配布方法	アンケート
1	仙台市PTAフェスティバル	2016/11/13	保護者向けに【資料1: α版】を配布 タブレットを使った機能制限実機体験を実施、説明も行う。③	12名
2	滋賀県PTA大会 「ネットモラルキャラバン隊」	2016/12/3	研修会場で【資料1: β版】を配布 パネルディスカッション内で尾花氏より資料の紹介説明 ①	285名
3	福島県PTA大会 「ネットモラルキャラバン隊」	2017/2/11	研修会場で【資料1: 完成版】を配布 尾花氏の講演内で資料の紹介説明 ①	76名
4	山梨県PTA大会 「ネットモラルキャラバン隊」	2017/2/18	研修会場で【資料1: 完成版】を配布 (配布のみ、口頭説明無し)②	118名
5	全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会 理事会向け研修	2017/2/23	研修資料として、【資料2】を利用 (講師:尾花氏)①	27名

(①資料配布+研修で紹介 / ②資料配布のみ / ③設定実機体験とセット)

その他、平成26年春より関係府省庁やPTAと連携して行っている「春のあんしんネット・新学期一斉行動」、関連イベントにおいて【資料1】の配布を行った。

※以下実施場所、日付、(展開数)

- ◇ 埼玉サイバーセキュリティ推進会議、1/31 (100)
- ◇ 千葉県イオンモール幕張、2/1 (1000)
- ◇ サンロード青森、2/4 (500)
- ◇ 関西スマホサミット、2/4 (400)
- ◇ 警視庁少年育成課 東京スカイツリータウン・東京ソラマチ、2/4-5 (1000)
- ◇ イオンモール山形南、2/12 (500)
- ◇ イオン郡山フェスタ、2/18 (500)
- ◇ 茨城県水戸ホーリーホック、3/4 (1000)
- ◇ 文部科学省「東京フォーラム」、3/14 (200)
- ◇ 文部科学省「依存症予防教育推進シンポジウム」、3/16 (200)
- ◇ 京都市市民インストラクター研修会、3/17 (35)

<アンケート実施結果>

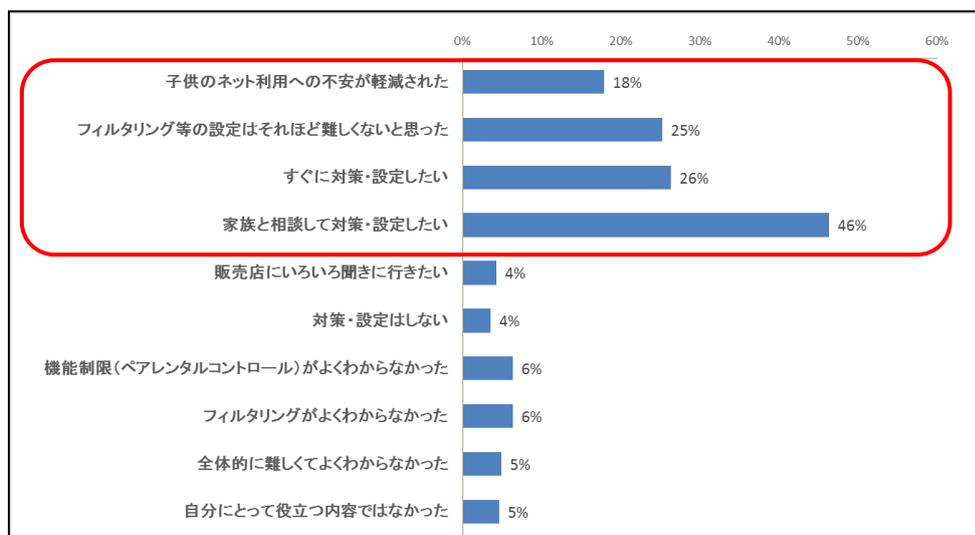
通常行っているセミナーアンケートの最後に当啓発資料に関する設問(以下)を追加し、研修終了後に回収。何らかの選択を行った方を対象に集計。

「インターネットの安全利用」の配布資料に関してご記入ください。(当てはまるもの全てに○)

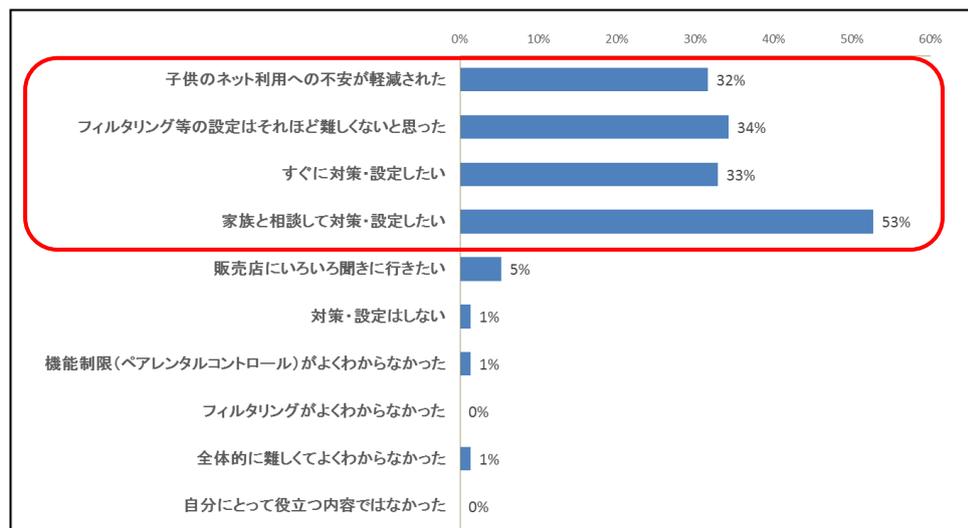
- 1.子供のネット利用への不安が軽減された
- 2.フィルタリング等の設定はそれほど難しくなかった
- 3.すぐに対策・設定したい
- 4.家族と相談して対策・設定したい
- 5.販売店にいろいろ聞きに行きたい
- 6.対策・設定はしない〔理由〕
- 7.機能制限(ペアレンタルコントロール)がよくわからなかった
- 8.フィルタリングがよくわからなかった
- 9.全体的に難しくよくわからなかった
- 10.自分にとって役に立つ内容ではなかった

① 資料配布+研修で紹介後にアンケートを実施したパターン:

<滋賀県PTA大会「ネットモラルキャラバン隊」 n=285> 【資料1:β版】をパネルディスカッション内で紹介

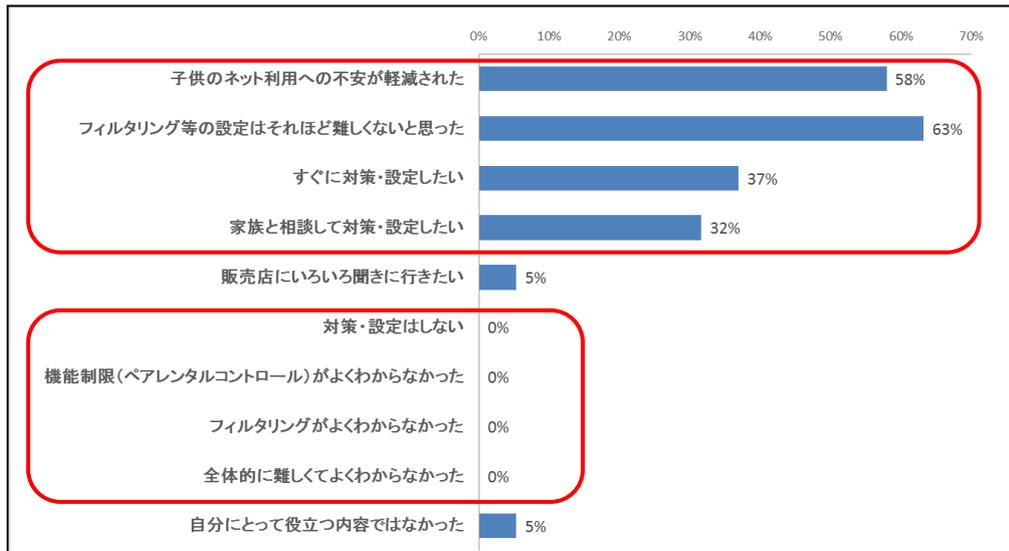


<福島県PTA大会「ネットモラルキャラバン隊」 n=76> 【資料1:完成版】を講演内で紹介説明



いずれも「不安の軽減」「難しいイメージの軽減」「対策・設定意欲」に一定の効果が見られ、また講演で資料の簡単な補足説明を行ったケースの方が若干高い数値であった。

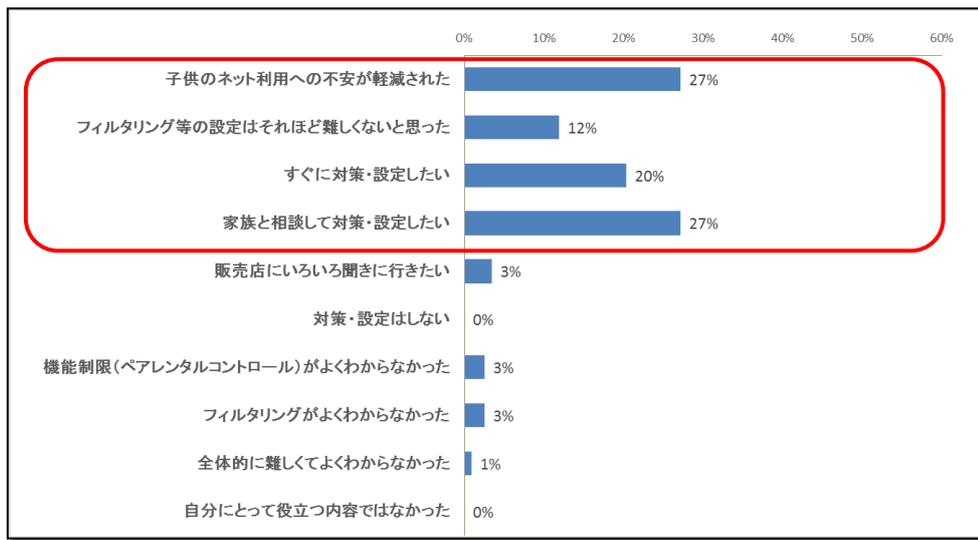
<全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会理事会向け研修 n=19> 【資料2】を研修資料として利用



さらに啓発資料を研修内で丁寧に説明することにより、「不安の軽減」「難しいイメージの軽減」「対策・設定意欲」に一層の効果が見られ、「内容が分からない」「対策・設定はしない」の回答は無かった。

② 資料配布のみでアンケートを実施したパターン

<山梨県PTA大会「ネットモラルキャラバン隊」 n=118> 【資料1:完成版】を配布

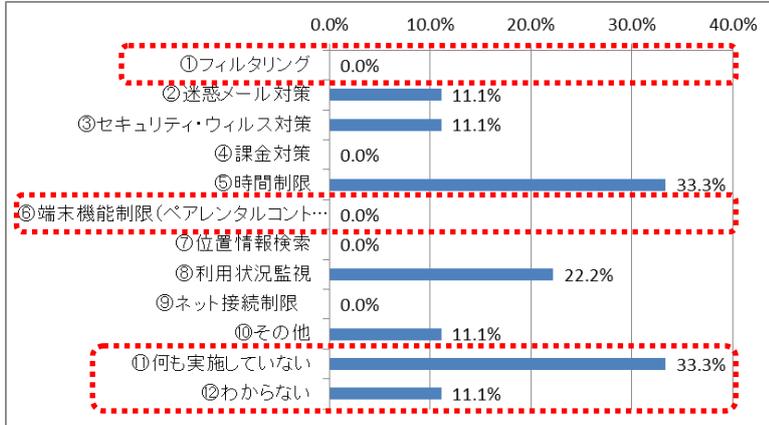


資料の補足説明を行っていない場合は「フィルタリング等の設定は難しいイメージの軽減」「対策・設定意欲」について補足説明を行った場合と比較し意識の変化への影響は低い結果となった。

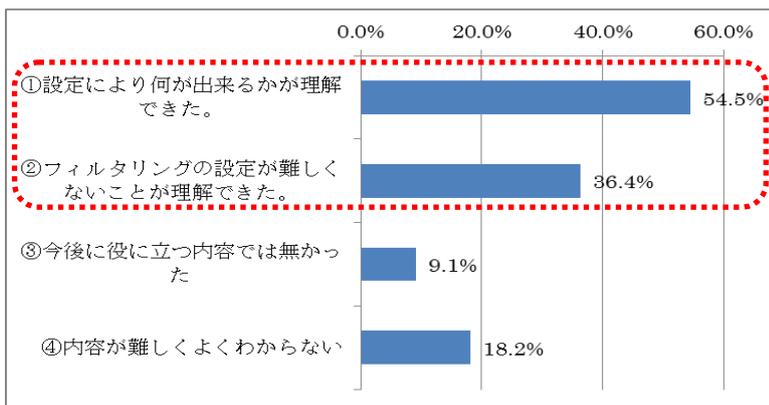
③ 設定実機体験とセットパターン

＜仙台市PTAフェスティバル 配布 160 枚／回収 12 枚＞(幼稚園～小学校低学年保護者に【資料1: α 版】を配布し iOS 機能制限、YouTube 制限付きモードの実機体験デモを実施。実機体験後にアンケート記入・回収

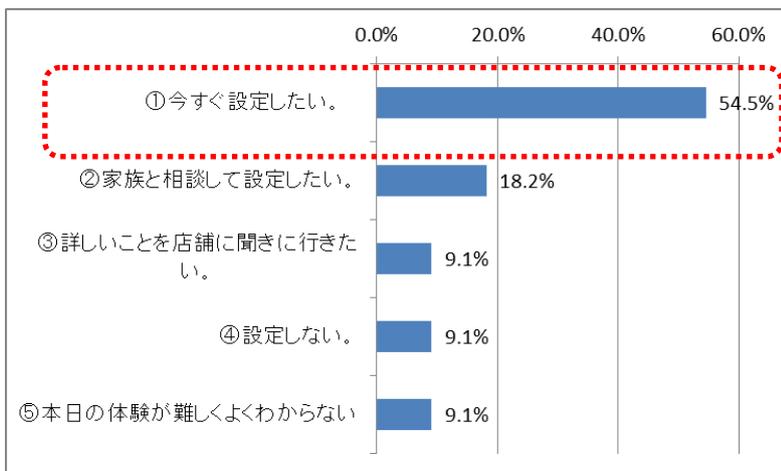
お子様が利用する端末の安心安全対策(複数回答)



フィルタリング設定実機体験について(複数回答)



フィルタリングや機能制限について、今後設定を行いますか(意識の変化)



設定の実機体験は「難しいイメージの軽減」「対策・設定意欲向上」に非常に効果的であることが確認できた。啓発利用は補助資料(家に持ち帰って実際に自端末に設定する際の参考資料)として有効と想定される。

3. 活動総括、今後の活動方針

本年度は低年齢層とその保護者の利用実態、意識調査を経て普及啓発活動に活用できる啓発資料を作成し、期中のイベントや研修会でも即時配布活用ができた。これは一定の成果と言える。

【尾花リーダー コメント】

生まれた直後から、「カメラ」や「ビデオ」としてスマートフォンを向けられながら育つ現代の子供たち。大好きな保護者の笑顔の傍には常にスマホがあるのだから、興味を持たないはずはない。そういった時代背景も手伝ってデジタル機器利用の低年齢化が著しい昨今、幼い子供向けに用意されたものではなく、大人が使う機器をそのまま貸し与えることによるリスクをいかにして(それもわかりやすく)保護者や教職員に伝えるかが、大きな課題となっている。

ともすると、現代の保護者の生活環境や心理状態を鑑みず、「スマホに子育てをしていませんか？」という一方的な苦言に終始しがちであることから、“保護者の心に届く啓発資料”になることを第一に、2015年度の調査結果をベースとして、調査・企画と普及啓発の両委員会から幅広い見識や経験を持つメンバーが集結して取り組んだことにより、『2-3:効果検証』につながるものが出来上がったと自負している。

デジタル機器やインターネットの事業者でも専門家でもなく、単なる利用者である保護者は「言われなければ気づかない」ことも多い。それは逆に、「気づかせることができれば、意識してもらえる」ということであり、それが“子供の成長や発達にも役立つ知恵”であったり、“ネットによるトラブルへの不安を減らす工夫”であったりすれば、「できることからやってみよう！」という気持ちになる可能性は高い。フィルタリングひとつとっても、「設定することになっている」と強制するよりも、「こんな不安を抱いているなら、フィルタリングが有効です」と説明するほうが共感を生み、行動につながる。こういった現場感覚は、安心協会で、あるいは参加メンバー各人が活動する中で培ってきたものであり、それが本啓発資料に活かされた形となった。

最も特徴的なコンテンツは、未就学児の子育て中の保護者に問いかける「大人のためのチェックシート」である。実際、10のチェック項目のうち3~4個を語りかけるように読み上げると、セミナー会場の空気が変わる。この10項目を、母親学級や両親学級などで伝えるだけでも、現状に変化をもたらすことができるのではと考える。

本啓発資料は、画面操作による各種設定方法を学ぶ説明書としての役割も大きいですが、技術的な面だけでなく、低年齢の子供の保護者や教職員の意識を醸成するために語りかける資料として大いに活用してほしい。そのために、次のステップとして、こういった内容のエバンジェリスト(伝道者・かたりべ)の育成を手掛けていきたい。

【七海サブリーダー コメント】

本啓発資料には画期的といえる特徴が3点ある。1点目は、これまで未踏であった就学前から小学校低学年くらいまでの低年齢児がインターネットを利用する際の安全安心について検討し、対策を打ち出した点である。2点目は、検討および資料作成において、低年齢児を育児中の“保護者に寄り添うこと”に最大の注意を払い、盛り込む内容を厳選し、表現の吟味をつくした点である(主に<資料1>ページ1:リスク喚起と対策概要、ページ2:フィルタリングサービスの紹介、使い過ぎや依存への配慮、<資料2>ページ2~3:リスク喚起と対策概要、ページ4,6:フィルタリングサービスの紹介、使い過ぎや依存への配慮、ページ8:大人のための「情報モラル&マナー」チェックシートなどを参照)。

3点目は、国内キャリア各社はもとよりApple社、Google社などの協力を得て、低年齢児の安全安心を第一に考えて保護者機能を設定するための必要かつ的確な情報を提示できた点である(<資料1,2>:iOS機能制限、Google保護者による使用制限、YouTube制限付きモード設定方法を参照)。

これらは「安心ネット促進協議会」ゆえに可能になったことであるとともに、低年齢化サブワーキンググループ

参画者がそれぞれの強みを活かして臨んだ結果といえる。

さらに、こうして完成した啓発資料の効果について、スピーディに啓発現場やイベントで保護者へ配布・説明、実機体験してもらうことで検証を試みた結果、「それまで不安を感じていた保護者が子供に安心してインターネットを使わせるために“具体的にできることがある”ことを知り、それは“思ったよりも簡単だ”と感じてもらえたこと」は非常にうれしい成果であり、今後の展開への活力となるものと考えている。

今後の検討課題は「この活動における調査分析結果や啓発素材をより多くの対象に対して、どのように周知展開していくのか」であり、来期の活動においても、効率的な啓発資料の展開と利活用の推進方法を検討していく必要がある。これについては普及啓発作業部会の元、必要に応じサブワーキングを形成の上、検討実施作業をすすめていく。

今後も青少年が利用するインターネットに接続可能な機器の多様化や環境変化に応じた新たな課題・問題等の発生が想定される。

したがって、安心ネットづくり促進協議会として、時事的な課題等に対して現状把握や対策の検討を遂行し、継続的な普及啓発活動と連携した取り組みを進めていくこととする。

以上